

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年12月12日

【評価実施概要】

事業所番号	3472500614
法人名	社会福祉法人 しらゆり会
事業所名	グループホーム長寿苑
所在地	広島県東広島市西条馬木1660-2 (電話) 082-425-2000

評価機関名	社団法人 広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町1丁目6-29
訪問調査日	平成19年12月12日

【情報提供票より】(2007 年 11 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 12 年 3 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤 12 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート3階建造り 3階建ての 2階 ~ 3階部分
------	----------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ⑧	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1380 円			

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	名
要介護1	5 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.4 歳	最低	69 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人三永会 山崎神経科内科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、介護保険制度の開始前から運営を始められており、広島県におけるグループホームのパイオニアである。基本的には医療と介護の役割を明確にし、医療機関との連携を緊密にした運営がなされている。また、開設時から看護師2名、夜勤者1名が常勤として配置するなどターミナルケアにどう対応するかを予測した取り組み、この考えには頭が下がった。何よりも実費負担分の家賃2万円、食費を入れて約6万円と国民年金の平均的受給者でも利用できるようなされている。社会福祉法人の原点ともいえる運営体制は改めて評価するとともに、地域にはさまざまな支援があることを視野に入れ検討されることを期待したい。今後も作り上げてきた数々のノウハウを日々のケアに活かすとともに、また幅広く地域に広げることが可能であれば広島県の認知症ケアも一段と進化があるのではないかと感じた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回同様今回も、特段の改善点は見つからなかった。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員が十分理解しながら更に、認識し積極的にサービスの向上につなげられている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>東広島市では特に行政職員が毎回出席し意見の交換をしている。これは他の地域ではほとんど見られないことで、今後に活かしたい。グループホームだけでなく介護業界では全般に見られることだが、近年特に若い職員の離職が目止まるのが議題にあがるなど、当事業所では一歩先んじた取り組みが見られた。せっきくの行政の参加は大切に、近い将来にはこれらに応えられる努力を期待したい。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>月次の報告、さらには来訪時などを通じて積極的な収集と対応がなされている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の小学校、保育所、幼稚園など、と定期的な交流が行われている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念を明確化され、これらに対応されている。		
		理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念を認識した上で、理解し日々の業務の中で活かす努力をしている。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	広報誌の配布や年4回開催する家族会、近隣施設等との交流の場をととして積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価内容は全員で理解し合い、その結果を踏まえて把握するとともに業務に活用している。		
		運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	積極的な取り組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政とは緊密に連携しながら、また、共に各種研修等にも積極的に参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、個々に書面で近況報告をしている。さらには利用者の絵手紙等も添えたり電話対応、来訪時にこまめに伝達したりしてきめ細かくコミュニケーションを図っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族への意向調査をホーム独自で年一回実施し、内容を分析の上参考にしてている。意見箱の設置やあらゆる機会をとおして意見を聞く機会を設け、サービスの向上に活かす努力が見られる。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が代わるときは、引き継ぎの期間を十分に取り、スムーズに移行できるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画による法人での研修と、ホームでの月例研修がある。これらに加え更に、外部での研修にも役割内容等に応じて参加している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東広島市の介護支援専門協議会等での情報交換会や、勉強会にも参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所からはじめて、本人そして家族の理解を十分得て入所するシステムを導入している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとりの個性、特性を把握しながらサポートに徹したケアが行われている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向はもとより家族からも情報を得ると共に、支援をいただくなどして、更に生活歴を把握した個別のサービスが行われている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	可能な限り本人、家族の意向を組み込んだ計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	設定された見直し期間はもとより、一ヵ月毎に細かい評価をしながら現状を重視した対応がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	重度化が進行する程度に応じて、医療機関との連携は特に密に行われている。 早期に医療処置を受ける、などターミナルケアへも積極的に取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所とともにホームに一任したいとの申し出が多く、本人・家族の了解のもと、協力医療機関の医師を選定している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化やターミナル期への説明は早期に本人、家族さらに医師にその対応を説明し理解を得ており、その連携には万全の配慮をしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員はプライバシーの確保の徹底について認識、理解し、日々の業務の中で活かす努力をしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別のタイムスケジュールの中で日々の支援に努めており、自由度は相当高いと感じた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所者には、食事づくりが出来る人は参加していただくなど、その役割の一翼を担ってもらっている。選択メニューとして晩酌・花見弁当・駅弁・外食・出前等も楽しめる配慮がされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望者には、毎日の入浴も出来る対応である。清潔を保つために汚れが見られたらシャワー浴も随時実施している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を記録し、職員でその情報を共有しながら、ケアに努めている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	施設の周りにはのどかな田園風景があり、天気の良い日は日常的に散歩を行っている。また、季節や時期を見てドライブや外出も実施している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望の強い利用者に対して、安全面を優先しており玄関の開放は難しい状況にある。		安全の確保を検討されながら、鍵をかけないケアの検討を継続していただきたい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、消防署の指導も得て避難訓練等を定期的に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員全員で日々の状況を記録し、情報を共有しながら「食への管理」に取り組んでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の部屋、共有部分なども広く南向きの窓からは穏やかな田園風景が散見でき、季節感や日々の気候も存分に感じ取れる環境である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の希望の物品が持ち込まれ、家庭の雰囲気づくり、自分の空間づくりへの配慮は十分であった。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 長寿苑 つる

評価年月日 19年 11月 1日

記入年月日 19年 11月 1日

記入者 職 氏名 小山 ひとみ

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	法人全体の理念にそって各事業所が目標としての理念を持っている。		ターミナル介護なども行なっていく上での理念の見直しを再度取り組んでいく。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	日々の実践の中で困ったときは、理念に立ち戻って話し合いをする努力はしているが、職員一人ひとりが理念の中身を知り、日々の実践の中でそれを意識して活かしていけるかどうかの確認はできていない。		何を大切に利用者に向き合うか、日々話し合い確認していきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	年2回の法人全体の「しらゆり」広報誌や年4回の家族会等で理念の啓発・広報に取り組んでいる。		家族や地域の人々への働きかけを増やしていきたい。

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	隣近所の人と挨拶をしており日常的なつきあいができるように努めている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	近隣の小学校・保育所・幼稚園などと定期的に交流を持っている。		地域の行事にホームの方から声掛けをし、参加していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	ご家族来苑時、高齢者の方の相談を居宅介護支援事業所等と連携をとり、対応方法やアドバイスをさせて頂いている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価を職員全体で計画的・継続的に取り組んでいないが、都度確認はしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催しているが、議題がなかなか見つかりにくく、サービス向上に向けて意見を交換している。		運営推進会議や市町に結果を公表している。 今後メンバーに率直な意見を頂けるようにしていき、今後の取り組みにつなげていく。
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町主催の実施指導にはできる限り参加している。		地域密着型という新しい形態についてより詳しく知りたいと思う。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	職場内研修で成年後見制度について学習している。		今後、権利擁護に関する制度について更に知識を深め、必要時情報提供できるよう努めていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職場内研修で虐待や拘束の研修を受けている。身体的虐待より精神的が虐待になるような言葉かけ等見られることがあり、都度対応策をとっている。		個々によって虐待のとらえ方が異なるので、共通意識の基盤作りが必要となる。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、一通りの説明をし、納得を得るようにしている。		今後契約時、自己評価や外部評価の結果も合わせて提示・説明行なえるようにしていく。
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	日々利用者の思いや意見を表に出来るよう、できるだけ職員が心掛けている。 出された意見は、会議やミーティングで話し合い解決に向けている。		利用者・家族が意見などを出しやすい環境を整えたい。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月個別に文書で報告している。 又、利用者自身で書いた絵手紙に近況報告等も寄せている。電話や面会時での報告もマメにしている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を設置すると共に、家族会の時や面会されたときなど意見を求めたりお困り事がないか都度お聴きしている。又、4月にはご家族宛に意向調査を実施し、運営に反映させている。		家族から得られた意見などは、前向きに受け止め、質の向上に活かし、その回答も開示している。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は運営や管理について職員の声に耳を傾け、職員の意見を反映させている。		管理者が他事業所と兼務のため、完全に職員の思いを理解しているとは云えないので今後の課題としない。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	柔軟な対応が可能となるようパート勤務者を廃止し、常勤のみの体制としているが、利用者の重度化に伴ないスタッフの心身の負担も大きくなりつつある。		看護師や主任（フリー時）が、外出等人手不足時に対応できるようにしている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>異動に関する苦情やご意見はよく聴かれますが、配置転換に関しては、明確な理由をお話した上でご理解を頂いている。</p>		<p>極力利用者と職員との馴染みの関係作りに心掛けている。 ただし、職員と利用者との必要な一線は残すよう取り組んでいる。</p>
<p>5 人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>年間計画に基づき、職場内研修に参加している。ホーム内勉強会等、毎月1回実施している。法人外研修にも積極的に参加している。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>市の介護支援専門協議会等で同業者との交流をする機会を持ち、勉強会等している。</p>		<p>県社協からの実習者の依頼を受け、実習時に意見交換を行なっている。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員の私物がおける場所の配慮はできている。仮眠をとる場所や寝具・冷暖房の配慮もなされている。</p>		<p>常時、問いかけが出来ないためストレスの把握が完全にできないので今後の課題としたい。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>研修に出にくい状況下にあるも、その中でも認知症介護の実践者研修を受講したり、スタッフの力の向上に向けた取り組みに努めている。</p>		<p>ケース会議やカンファレンスで前向きな意見が聞かれるよう努力したい。</p>
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>ご本人さんが見学・相談に来られた際、不安に思われていること、お困りの事等よくお聴きして安心して頂けるよう努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族が相談に来られた際は、お話を聴き、思いや要望等受け止める努力をしている。 又、見学等もしてもらっている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	必要に応じて他サービスの利用の調整を行なうなど速やかに対応している。(事務所・居宅介護支援事業所)		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	いきない入所ということはずせず、必ず体験利用をして頂き、納得してもらった上で、開始している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒に過ごす努力をしており、利用者に助けてもらったり、教えてもらったりしている。		一方的な縦の関係がないか、一人ひとりの職員が意識をもって日々利用者に関わっていくよう心掛けていく。
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族との密接なコミュニケーションがとれるよう、居心地の良い丁寧な対応を心掛けている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	本人の様子を毎月1回絵手紙にして送ったり、変わった事があれば電話で報告する等、密に行なっている。 又、家族会の時にビデオ等見てもらっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>今までの馴染みの人が訪問されたり手紙や電話でのやりとりがなされ、つながりが保たれるよう支援に努めている。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>仲の良い人同志が過ごせる配慮をしたり、利用者同志助け合ったりされている。 又、思いおもいに過せたりトラブルを回避するため距離をおく等の配慮をしている。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>退所された後も、相談に応じ継続的な関わりをもっている。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</div>				
<p>1 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>できる限り利用者の思いや要望にはしっかりと耳を傾けてその把握に努めているが、困難な場合、介護者側の視点でケアをしていることがある。</p>		<p>その人らしい生活が送っていけるように家族からも情報提供して頂いたり、日々の行動や表現から汲み取る努力をしていく。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>本人からも生活暦等お聴きしたり、ご家族からも情報を頂いてケアに活かしていけるよう努めている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>利用者の1日の暮らし方や生活のリズム等、大把握できている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人の声や家族の意向が出来るだけ反映できる介護計画となるよう努力しているが、利用者によってはケア側の視点で作成しているものもある。		全員の利用者・家族に意見が頂けるようしていきたい。 ただ本人・利用者の云々通りの計画は、危険な場合もある。
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画は設定された期間ごと、又、1ヶ月ごとの細かい評価を実施している。状態の変化が生じた場合も、変更時期が多少遅れることはあるが、現状に即した新たな計画を作成している。		ケース会議を繁回に行なっている。
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	情報共有ができるように個別に記録を行なっているが、介護計画に活かされるような記録の仕方とはいい難い。		スタッフの気付きやアイデアを個別記録ファイルに記入する等、もっとセンター方式を活用・工夫していきたい。
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	利用者の状態変化や重度化に伴ない医療連携体制を活かして早めに医療処置を行なって生活の継続を図ったり、終末期のケアにも対応できるよう支援している。		同一法人内に様々なサービスがあるので、連携していきたい。
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防については、年2回署員に参加して頂いて訓練をしている。 又、折紙教室の先生に来て頂いて、一緒に折紙をしたり生花クラブでの活け花に取り組んだりしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	介護保険対応施設なので、他のサービスの利用には取り組んでいない。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	包括支援センターは、参加が難しく協働はできない。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医については入所時に家族・本人の希望を聴いて、かかりつけ医を決めているが、苑にお任せするという方が大半なため、本人・家族の同意と納得の上、事務所の協力医療機関の医師をかかりつけ医となっていることが多い。		定期受診については家族・本人の希望される医療機関へ受診できるよう支援している。
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	週2回の認知症の専門医による往診を受けており、認知症の方への治療や指示・アドバイス等、熱心に対応して下さっている。 家族やスタッフとも連携をとり信頼関係が確立できている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	日曜日を除く月～土まで利用者の日常の健康管理や処置・リハビリ等を行い、利用者の心身状態の把握ができています。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には利用者の病状の把握や治療がスムーズに進むよう、その人のケア上のポイントについて情報交換やケアの協力（食事介助や話相手）をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化や終末期の有り方については、早期から本人や家族に方針を伝えていっている。 又、重度化・終末期においても家族や事業者・医師等と話し合い方針の統一を図れるよう努めている。</p>		<p>現在重度化が進んでおり、最期をどのように迎えられるかの密な話し合いを頻回に持っていきたい。</p>
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>重度化や終末期に向けたチームの支援は行なっている。</p>		<p>何名か全てに最期の看取りを行なっているが、ホーム側の負担も多く再度の検討が必要である。</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>やむをえず別の居所へ移り住む際は、家族と関係者で十分な話し合いや情報の提供を行なっている。</p>		<p>今までは、グループホームからショートステイ・特養へ変わられた方がおられる。</p>
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>日々、利用者に対する声かけや対応についてスピーチロックやプライバシーを損ねるようなことは極力しないように注意している。</p>		<p>個人記録等、個人情報に係る書類等の取り扱いを慎重に行なったり、シュレッダー等で完全消滅する。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>意思表示できない利用者に対してもシグナルキャッチして、真意を汲み取っていかうと努めている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>なるべく利用者一人ひとりのペースに合わせてケアを心掛けてはいるが、事業所の業務が優先になったりすることがあり、利用者のペースに沿ったケアが難しくなりつつある。</p>		<p>なるべく利用者の訴えに耳を傾け、気の済むまで話を聴きたいが、急変・特変もあり、希望通りにはいかない場合も多くなっているため、再検討したい。</p>

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	自分で衣類等選べる人へは、自分で選んでもらっているが、自分では選べない人へは、スタッフ側がその人に合った雰囲気を大切に服装を支援している。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	テーブル拭き・盛り付け・配膳・茶碗洗い・食器洗い・野菜の皮むき等、食事一連の動作をできる利用者と一緒にしてもらっている。		選択メニュー・晩酌・お花見弁当・駅弁・外食・出前等食事が楽しめるよう工夫している。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	定期的に嗜好調査を行なって、本人の好む物、好まない物の把握に努めている。 又、嫌いな物が献立に出た場合、他の物を作る等柔軟に対応している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握し、トイレ誘導して気持ちの良い排泄ができるよう支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	原則毎日入浴可能であるが、本人の状態に合わせている。入浴嫌いの人には、無理強いすることのないよう気持ちよく入っていただけるような声かけの工夫をしたりしている。		汚れたらすぐにシャワー浴も行なえるよう支援している。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中の個別の疲れ具合に合わせて休憩を取り入れたり、適度な昼寝をしてもらっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように, 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの生活歴やその人の得意なことを見極め役割や出番を作っていけるよう支援している。 (茶碗洗い・手すり拭き・食器片付け・洗濯たみ・野菜むき・米研ぎ・配膳・下膳等)		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は, 本人がお金を持つことの大切さを理解しており, 一人ひとりの希望や力に応じて, お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理ができる利用者には手持ちの小遣いとして所持してもらっている		当ホームとしては, 自己管理の金銭は, 所持して頂きたいのが本音である。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに, 一人ひとりのその日の希望にそって, 戸外に出かけられるよう支援している。	日常的に散歩や週1回の日常買物, 又春にはお花見ドライブ・お食事ドライブ・喫茶ドライブ等戸外に出掛けられる機会を作り, 気分転換を図っている。		天気の良い日はホームの周りを日常的に散歩していきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに, 個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	外出については, 本人の希望通り, 出掛けられるように支援していく努力をしている。 又, 年に何回か遠距離への食事会・おやつ時間を設け, 家族の参加もお願いしている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり, 手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙は毎月1回家族宛に送ったり, 電話は本人希望時はかけたり, かかってきた時は電話口まで来てもらって話をしてもらっている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが, いつでも気軽に訪問でき, 居心地よく過ごせるよう工夫している。	来客時はお茶を用意し, 対話に努め, 常に心地良くして頂けるよう配慮している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束のないよう日頃から実践に取り組んでいるし、研修も行なっている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関は自動ロックになっているが、夏場は解放している。構造上ロックはかかるようになっているが、利用者の方への心理的圧迫は特にないようである。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	安全確認には十分気をつけており、見守りや声かけ等で、事故防止に心掛けている。特に夜間時はスタッフの数が1人の為再三巡回している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	全てを取り除くようなことはしないで本人の状況を見ながらケースバイケースで対応している。包丁を持つては危険な人にはそばで見守って使用してもらっている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故やヒヤリハットに関する報告・記録はきちんと整理・保存し、スタッフ間で未然に事故が防げ、事故の減少につながるよう情報共有に努めている。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	緊急事態対応についてマニュアルを整備している。しかし、全職員が応急手当や初期対応ができるわけではない。		職場内研修で全ての職員が応急手当等の訓練に取り組んでいく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルを作成し、消防署の協力を経て避難訓練・避難経路の確認・消火器の使い方などの訓練を定期的に行なっているが、全員の職員にマニュアル内容が把握できていない。		勉強会など開催して、マニュアルを頭に入れておく。いざという時、地元の消防団と連携をとっている。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	起こりうるリスクを家族へ説明し、理解を求めている。		実際に起きてみないと想像ができにくく、理解して頂くよう対話を続けたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	一人ひとりの普段の様子をよく知り、常に変化や異常の発見に努めている。毎日のバイタルチェック・表情・顔色の変化など異常のサインを見逃さないよう気をつけている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬管理はスタッフ全員で行なっており、処方箋のコピーをケースごとに整理して内容が把握できるようにしている。服薬時には確実に服用できているか注意している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	基本的に自然排便を促せるように、毎日ヨーグルトやきなこ、ゼリー等食べてもらっている。毎日排便表のチェックをしてコントロールしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、利用者に合った口腔ケアを実行している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	カロリー過不足や栄養の偏り、水分不足が起こらないよう、スタッフ全員が意識をもって、必要な食事や水分が摂取できるよう支援している。食事・水分の摂取量を毎日記録し把握に努めている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	感染症マニュアルの作成を実施しており年間計画で勉強会を開催している。感染症の流行時には感染予防に努めている。(手洗い・うがいの徹底)		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板・包丁・食器類等は、消毒・洗浄に心掛け、衛生管理を行なっている。 まな板・包丁・布巾...毎日洗浄・消毒実施 食器...消毒 年2回実施		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	ハード面での限界はあるが玄関には生花や、利用者の作品等掲示しており、入りやすいような雰囲気作りに心掛けている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間はととも明るく創作物などの壁画があり、見晴らしもよい。ご飯の炊ける匂い、季節の花々、茶碗を洗う音等、五感に働きかける様々な刺激を生活空間の中に採りいれている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下の一角に椅子・テーブルを置き、一人で過したり、仲の良い利用者同志で談話する等の居場所があり、リビングにはソファや横になれる畳のスペースもある。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	それぞれ各居室内にはその人らしい物品や創作物・装飾品・家具等が持ち込まれ、安心して過せる場所となっている。d f		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	適宜、換気を行い室温湿調整もこまめに行なっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアフリーはもちろんだが、一人ひとりの利用者の状態に合わせて個別の設備(ドアをカーテンにする。普通の洋式トイレを洗浄式トイレに。フロア-を畳にする)にするなど、身体機能に応じた対応に努めている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	自分の居室がわからない。トイレがわからない等の人のために、わかりやすく居室入口に名前を掲げ、目印にしたり、大きな文字盤の時計や大きな日めくり暦も居室の目につくところに設置している。		新たに混乱や失敗が生じた場合は、都度スタッフでその解決策を話し合うようにしている。
87	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	利用者がベランダから水やりができるようにプランターで野菜や花など育てている。又、苑庭の畑で果物や野菜を植え、できる利用者が世話をしている。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 長寿苑 かめ

評価年月日 19年 11月 1日

記入年月日 19年 11月 1日

記入者 職 氏名 重河 栄子

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	法人全体の理念にそって各事業所が目標としての理念を持っている。		ターミナル介護なども行なっていく上での理念の見直しを再度取り組んでいく。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	日々の実践の中で困ったときは、理念に立ち戻って話し合いをする努力はしているが、職員一人ひとりが理念の中身を知り、日々の実践の中でそれを意識して活かしていけるかどうかの確認はできていない。		何を大切に利用者に向き合うか、日々話し合い確認していきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	年2回の法人全体の「しらゆり」広報誌や年4回の家族会等で理念の啓発・広報に取り組んでいる。		家族や地域の人々への働きかけを増やしていきたい。

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	隣近所の人と挨拶をしており日常的なつきあいができるように努めている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	近隣の小学校・保育所・幼稚園などと定期的に交流を持っている。		地域の行事にホームの方から声掛けをし、参加していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	ご家族来苑時、高齢者の方の相談を居宅介護支援事業所等と連携をとり、対応方法やアドバイスをさせて頂いている。		
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価を職員全体で計画的・継続的に取り組んでいないが、都度確認はしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催しているが、議題がなかなか見つかりにくく、サービス向上に向けて意見を交換している。		運営推進会議や市町に結果を公表している。 今後メンバーに率直な意見を頂けるようにしていき、今後の取り組みにつなげていく。
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町主催の実施指導にはできる限り参加している。		地域密着型という新しい形態についてより詳しく知りたいと思う。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	職場内研修で成年後見制度について学習している。		今後、権利擁護に関する制度について更に知識を深め、必要時情報提供できるよう努めていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職場内研修で虐待や拘束の研修を受けている。身体的虐待より精神的が虐待になるような言葉かけ等見られることがあり、都度対応策をとっている。		個々によって虐待のとらえ方が異なるので、共通意識の基盤作りが必要となる。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、一通りの説明をし、納得を得るようにしている。		今後契約時、自己評価や外部評価の結果も合わせて提示・説明行なえるようにしていく。
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	日々利用者の思いや意見を表に出来るよう、できるだけ職員が心掛けている。 出された意見は、会議やミーティングで話し合い解決に向けている。		利用者・家族が意見などを出しやすい環境を整えたい。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月個別に文書で報告している。 又、利用者自身で書いた絵手紙に近況報告等も寄せている。電話や面会時での報告もマメにしている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を設置すると共に、家族会の時や面会されたときなど意見を求めたりお困り事がないか都度お聴きしている。又、4月にはご家族宛に意向調査を実施し、運営に反映させている。		家族から得られた意見などは、前向きに受け止め、質の向上に活かし、その回答も開示している。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は運営や管理について職員の声に耳を傾け、職員の意見を反映させている。		管理者が他事業所と兼務のため、完全に職員の思いを理解しているとは云えないので今後の課題としない。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	柔軟な対応が可能となるようパート勤務者を廃止し、常勤のみの体制としているが、利用者の重度化に伴ないスタッフの心身の負担も大きくなりつつある。		看護師や主任（フリー時）が、外出等人手不足時に対応できるようにしている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>異動に関する苦情やご意見はよく聴かれますが、配置転換に関しては、明確な理由をお話した上でご理解を頂いている。</p>		<p>極力利用者と職員との馴染みの関係作りに心掛けている。 ただし、職員と利用者との必要な一線は残すよう取り組んでいる。</p>
<p>5 人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>年間計画に基づき、職場内研修に参加している。ホーム内勉強会等、毎月1回実施している。法人外研修にも積極的に参加している。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>市の介護支援専門協議会等で同業者との交流をする機会を持ち、勉強会等している。</p>		<p>県社協からの実習者の依頼を受け、実習時に意見交換を行なっている。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員の私物がおける場所の配慮はできている。仮眠をとる場所や寝具・冷暖房の配慮もなされている。</p>		<p>常時、問いかけが出来ないためストレスの把握が完全にできないので今後の課題としたい。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>研修に出にくい状況下にあるも、その中でも認知症介護の実践者研修を受講したり、スタッフの力の向上に向けた取り組みに努めている。</p>		<p>ケース会議やカンファレンスで前向きな意見が聞かれるよう努力したい。</p>
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>ご本人さんが見学・相談に来られた際、不安に思われていること、お困りの事等よくお聴きして安心して頂けるよう努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族が相談に来られた際は、お話を聴き、思いや要望等受け止める努力をしている。 又、見学等もしてもらっている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	必要に応じて他サービスの利用の調整を行なうなど速やかに対応している。(事務所・居宅介護支援事業所)		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならなかに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	いきない入所ということはずせず、必ず体験利用をして頂き、納得してもらった上で、開始している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒に過ごす努力をしており、利用者に助けてもらったり、教えてもらったりしている。		一方的な縦の関係がないか、一人ひとりの職員が意識をもって日々利用者に関わっていくよう心掛けていく。
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族との密接なコミュニケーションがとれるよう、居心地の良い丁寧な対応を心掛けている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	本人の様子を毎月1回絵手紙にして送ったり、変わった事があれば電話で報告する等、密に行なっている。 又、家族会の時にビデオ等見てもらっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>今までの馴染みの人が訪問されたり手紙や電話でのやりとりがなされ、つながりが保たれるよう支援に努めている。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>仲の良い人同志が過ごせる配慮をしたり、利用者同志助け合ったりされている。 又、思いおもいに過せたりトラブルを回避するため距離をおく等の配慮をしている。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>退所された後も、相談に応じ継続的な関わりをもっている。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</div>				
<p>1 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>できる限り利用者の思いや要望にはしっかりと耳を傾けてその把握に努めているが、困難な場合、介護者側の視点でケアをしていることがある。</p>		<p>その人らしい生活が送っていけるように家族からも情報提供して頂いたり、日々の行動や表現から汲み取る努力をしていく。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>本人からも生活暦等お聴きしたり、ご家族からも情報を頂いてケアに活かしていけるよう努めている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>利用者の1日の暮らし方や生活のリズム等、大体把握できている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人の声や家族の意向が出来るだけ反映できる介護計画となるよう努力しているが、利用者によってはケア側の視点で作成しているものもある。		全員の利用者・家族に意見が頂けるようしていきたい。 ただ本人・利用者の云々通りの計画は、危険な場合もある。
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画は設定された期間ごと、又、1ヶ月ごとの細かい評価を実施している。状態の変化が生じた場合も、変更時期が多少遅れることはあるが、現状に即した新たな計画を作成している。		ケース会議を緊回に行なっている。
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	情報共有ができるように個別に記録を行なっているが、介護計画に活かされるような記録の仕方とはいい難い。		スタッフの気付きやアイデアを個別記録ファイルに記入する等、もっとセンター方式を活用・工夫していきたい。
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	利用者の状態変化や重度化に伴ない医療連携体制を活かして早めに医療処置を行なって生活の継続を図ったり、終末期のケアにも対応できるよう支援している。		同一法人内に様々なサービスがあるので、連携していきたい。
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防については、年2回署員に参加して頂いて訓練をしている。 又、折紙教室の先生に来て頂いて、一緒に折紙をしたり生花クラブでの活け花に取り組んだりしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	介護保険対応施設なので、他のサービスの利用には取り組んでいない。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	包括支援センターは、参加が難しく協働はできない。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医については入所時に家族・本人の希望を聴いて、かかりつけ医を決めているが、苑にお任せするという方が大半なため、本人・家族の同意と納得の上、事務所の協力医療機関の医師をかかりつけ医となっていることが多い。		定期受診については家族・本人の希望される医療機関へ受診できるよう支援している。
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	週2回の認知症の専門医による往診を受けており、認知症の方への治療や指示・アドバイス等、熱心に対応して下さっている。 家族やスタッフとも連携をとり信頼関係が確立できている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	日曜日を除く月～土まで利用者の日常の健康管理や処置・リハビリ等行い、利用者の心身状態の把握ができています。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には利用者の病状の把握や治療がスムーズに進むよう、その人のケア上のポイントについて情報交換やケアの協力（食事介助や話相手）をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化や終末期の有り方については、早期から本人や家族に方針を伝えていっている。 又、重度化・終末期においても家族や事業者・医師等と話し合い方針の統一を図れるよう努めている。</p>		<p>現在重度化が進んでおり、最期をどのように迎えられるかの密な話し合いを頻回に持っていきたい。</p>
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>重度化や終末期に向けたチームの支援は行なっている。</p>		<p>何名か全てに最期の看取りを行なっているが、ホーム側の負担も多く再度の検討が必要である。</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>やむをえず別の居所へ移り住む際は、家族と関係者で十分な話し合いや情報の提供を行なっている。</p>		<p>今までは、グループホームからショートステイ・特養へ変わられた方がおられる。</p>
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>日々、利用者に対する声かけや対応についてスピーチロックやプライバシーを損ねるようなことは極力しないように注意している。</p>		<p>個人記録等、個人情報に係る書類等の取り扱いを慎重に行なったり、シュレッダー等で完全消滅する。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>意思表示できない利用者に対してもシグナルキャッチして、真意を汲み取っていかうと努めている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>なるべく利用者一人ひとりのペースに合わせてケアを心掛けてはいるが、事業所の業務が優先になったりすることがあり、利用者のペースに沿ったケアが難しくなりつつある。</p>		<p>なるべく利用者の訴えに耳を傾け、気の済むまで話を聴きたいが、急変・特変もあり、希望通りにはいかない場合も多くなっているため、再検討したい。</p>

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	自分で衣類等選べる人へは、自分で選んでもらっているが、自分では選べない人へは、スタッフ側がその人に合った雰囲気を大切に服装を支援している。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	テーブル拭き・盛り付け・配膳・茶碗洗い・食器洗い・野菜の皮むき等、食事一連の動作をできる利用者と一緒にしてもらっている。		選択メニュー・晩酌・お花見弁当・駅弁・外食・出前等食事が楽しめるよう工夫している。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	定期的に嗜好調査を行なって、本人の好む物、好まない物の把握に努めている。 又、嫌いな物が献立に出た場合、他の物を作る等柔軟に対応している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握し、トイレ誘導して気持ちの良い排泄ができるよう支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	原則毎日入浴可能であるが、本人の状態に合わせている。入浴嫌いの人には、無理強いすることのないよう気持ちよく入っていただけるような声かけの工夫をしたりしている。		汚れたらすぐにシャワー浴も行なえるよう支援している。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中の個別の疲れ具合に合わせて休憩を取り入れたり、適度な昼寝をしてもらっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように, 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの生活歴やその人の得意なことを見極め役割や出番を作っていけるよう支援している。 (茶碗洗い・手すり拭き・食器片付け・洗濯たみ・野菜むき・米研ぎ・配膳・下膳等)		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は, 本人がお金を持つことの大切さを理解しており, 一人ひとりの希望や力に応じて, お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理ができる利用者には手持ちの小遣いとして所持してもらっている		当ホームとしては, 自己管理の金銭は, 所持して頂きたいのが本音である。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに, 一人ひとりのその日の希望にそって, 戸外に出かけられるよう支援している。	日常的に散歩や週1回の日常買物, 又春にはお花見ドライブ・お食事ドライブ・喫茶ドライブ等戸外に出掛けられる機会を作り, 気分転換を図っている。		天気の良い日はホームの周りを日常的に散歩していきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに, 個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	外出については, 本人の希望通り, 出掛けられるように支援していく努力をしている。 又, 年に何回か遠距離への食事会・おやつ時間を設け, 家族の参加もお願いしている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり, 手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙は毎月1回家族宛に送ったり, 電話は本人希望時はかけたり, かかってきた時は電話口まで来てもらって話をしてもらっている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが, いつでも気軽に訪問でき, 居心地よく過ごせるよう工夫している。	来客時はお茶を用意し, 対話に努め, 常に心地良くして頂けるよう配慮している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束のないよう日頃から実践に取り組んでいるし、研修も行なっている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	帰宅願望のある利用者がおられ、日中も解放することが殆どないため、今後は利用者の方の安全を確保しながらできるだけドアの解放に努めていきたい。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	安全確認には十分気をつけており、見守りや声かけ等で、事故防止に心掛けている。特に夜間時はスタッフの数が1人の為再三巡回している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	全てを取り除くようなことはしないで本人の状況を見ながらケースバイケースで対応している。包丁を持っては危険な人にはそばで見守って使用してもらっている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故やヒヤリハットに関する報告・記録はきちんと整理・保存し、スタッフ間で未然に事故が防げ、事故の減少につながるよう情報共有に努めている。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	緊急事態対応についてマニュアルを整備している。しかし、全職員が応急手当や初期対応ができるわけではない。		職場内研修で全ての職員が応急手当等の訓練に取り組んでいく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルを作成し、消防署の協力を経て避難訓練・避難経路の確認・消火器の使い方などの訓練を定期的に行なっているが、全員の職員にマニュアル内容が把握できていない。		勉強会など開催して、マニュアルを頭に入れておく。いざという時、地元の消防団と連携をとっている。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	起こりうるリスクを家族へ説明し、理解を求めている。		実際に起きてみないと想像ができにくく、理解して頂くよう対話を続けたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	一人ひとりの普段の様子をよく知り、常に変化や異常の発見に努めている。毎日のバイタルチェック・表情・顔色の変化など異常のサインを見逃さないよう気をつけている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬管理はスタッフ全員で行なっており、処方箋のコピーをケースごとに整理して内容が把握できるようにしている。服薬時には確実に服用できているか注意している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	基本的に自然排便を促せるように、毎日ヨーグルトやきなこ、ゼリー等食べてもらっている。毎日排便表のチェックをしてコントロールしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、利用者に合った口腔ケアを実行している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	カロリー過不足や栄養の偏り、水分不足が起こらないよう、スタッフ全員が意識をもって、必要な食事や水分が摂取できるよう支援している。食事・水分の摂取量を毎日記録し把握に努めている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	感染症マニュアルの作成を実施しており年間計画で勉強会を開催している。感染症の流行時には感染予防に努めている。(手洗い・うがいの徹底)		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板・包丁・食器類等は、消毒・洗浄に心掛け、衛生管理を行なっている。 まな板・包丁・布巾...毎日洗浄・消毒実施 食器...消毒 年2回実施		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	ハード面での限界はあるが玄関には生花や、利用者の作品等掲示しており、入りやすいような雰囲気作りに心掛けている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間はととも明るく創作物などの壁画があり、見晴らしもよい。ご飯の炊ける匂い、季節の花々、茶碗を洗う音等、五感に働きかける様々な刺激を生活空間の中に採りいれている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下の一角に椅子・テーブルを置き、一人で過したり、仲の良い利用者同志で談話する等の居場所があり、リビングにはソファや横になれる畳のスペースもある。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	それぞれ各居室内にはその人らしい物品や創作物・装飾品・家具等が持ち込まれ、安心して過せる場所となっている。df		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	適宜、換気を行い室温湿調整もこまめに行なっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアフリーはもちろんだが、一人ひとりの利用者の状態に合わせて個別の設備(ドアをカーテンにする。普通の洋式トイレを洗浄式トイレに。フロアを畳にする)にするなど、身体機能に応じた対応に努めている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	自分の居室がわからない。トイレがわからない等の人のために、わかりやすく居室入口に名前を掲げ、目印にしたり、大きな文字盤の時計や大きな日めくり暦も居室の目につくところに設置している。		新たに混乱や失敗が生じた場合は、都度スタッフでその解決策を話し合うようにしている。
87	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	利用者がベランダから水やりができるようにプランターで野菜や花など育てている。又、苑庭の畑で果物や野菜を植え、できる利用者が世話をしている。		